

子どもの「夢」「願い」から始まる授業づくり

企画者	高津 梓・工藤傑史	(筑波大学附属大塚特別支援学校)
司会者	工藤傑史	(筑波大学附属大塚特別支援学校)
話題提供者	宇佐美太郎	(筑波大学附属大塚特別支援学校)
	深津達也・佐藤義竹	(筑波大学附属大塚特別支援学校)
	安達敬子	(筑波大学附属大塚特別支援学校)
指定討論者	小島道生	(筑波大学人間系)
	柘植雅義	(筑波大学人間系)

KEY WORDS: 知的障害者の「願い」 意思の表明 協同学習

【企画趣旨】

平成 28 年に施行された障害者差別解消法における「合理的配慮の提供」等、障害者を取り巻く近年の動向において、障害者自らが意思を表明し主体的に社会生活を送ることの重要性が語られている。しかし、知的障害に関してはその障害の特性上、自らが考えて意思表明を行うことが困難なことがある。意思表明の基となる「願い」について、「今～したい、～が欲しい」から「将来～になりたい」というような見通し、さらには生活経験を踏まえたレポーター、そしてそれを表出する手段についても、個々の実態によって異なっている。

また、知的障害の特別支援教育においては、「個別の教育支援計画」に本人の願いを盛り込むための実践が行われているが、願いの聴き取りや行動観察のみではその「育ち」につながることは難しい。人と人との関係の中でさまざまな「願い」に触れ、知識を得る試みや、自己選択による小さな願いの実現を支援する指導の積み重ねは、知的障害のある児童生徒が「願い」や「意思」を表明するための知識や手段の学習の基礎となると考えられる。児童生徒がより自分らしい「願い」をもち、その実現に向かって進めるようにするためには、どのような支援と指導が望ましいのかを検討していく必要がある。

本シンポジウムでは、筑波大学附属大塚特別支援学校中学部での授業実践をもとに子ども達の「願い」の育ちを支援するための授業づくりと、個別の教育支援計画にその「願い」をどう反映し将来のより豊かな生活に結び付けていくかについて検討することを目的として企画した。

【話題提供 1】子どもの「願い」を育てる授業づくり 深津達也・佐藤義竹 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

世界には、生徒たちが興味を持ち、『知りたい』『やってみよう』と思う事柄がたくさんある。それらを学習の題材とし、生徒たちの主体的な学習参加を促すことで、やりたいことを自己決定したり、自分の気持ちを他者に伝えたりすることができると考え、「みんなでいっしょに世界旅行！～調べて、体験して、発表しよう！～」という学習単元を設定した。

単元前半では、生徒たちが現在持っている興味関心から抽出した 5 つのテーマ（「食べ物」「音楽・ダンス」「生き物」「鉄道」「物語」）の中から、学びたいテーマを選択し、調べたり体験したりしながら興味関心を深め、発表会で友達と共有する活動を計 5 クール実施した。単元後半では、自分の好きなことだけではなく、友達が興味を持っていることを知ったり一緒に体験したりすることを通して、興味関心を広げることができた。

本単元を通して生徒たちの『思い』や『願い』がいかに

広がり深まっていったのかについて、報告したい。

【話題提供 2】子どもの「願い」や「思い」の育ち 安達敬子 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

コミュニケーション領域に課題のある生徒の「願い」や「思い」は、設定された授業の中から見いだされ、育てられることもある。「願い」は、本人と保護者と関わった支援者たちの「願い」と重なり合う。それらを意味づけるには、個別教育計画を縦断的に見つけ直すことにヒントがある。事例では、小学部から入学した中学部 3 年生のケースを報告する。要求や意志の表明が困難な R さんは、授業で、自身の「願い」を得意の「描画」で表す機会を得た。同時に日常生活の中で、気持ちを表すことばを習得したことにより、情緒の安定が見られ、良好な仲間関係を築くに至っている。多様な「願い」から出発した授業は、私たちに創造力と子どもの「育ち」へ可能性を与えたといえよう。

【話題提供 3】知的障害者における夢や希望「願い」 宇佐美太郎 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

知的障害特別支援学校卒業後、その多くの生徒が就労の道に進むなか、知的障害者が働くことに期待感を持ち、より主体的にそして意欲的に社会生活を送るためには、働くという行為の先にある日常生活の充実感や満足感、まさに「夢や希望」「願い」が必要不可欠であると考え。しかし知的障害という障害の特性上、自分の「夢や希望」を自ら描き「願い」を考えることは困難である。

本報告では知的障害特別支援学校中学部において、生徒自身が「願い」を語り保護者・友達・教師と共有することで実現できたこと、さらに調査学習を通して自らの「夢や希望」を拓いていった実践について報告し、取り組みの過程で明らかとなった「夢や希望・願いは知識と体験がベースになる」という知見について述べ、今後の展開について考察していきたい。

【指定討論】

小島道生 (筑波大学人間系)
柘植雅義 (筑波大学人間系)

3 つの話題提供から、知的障害特別支援学校における、知的障害のある子どもの「願い」を育てその表出を促すための具体的な実践の効果や意義について指定討論を行う。

(TAKATSU Azusa, KUDO Takeshi, FUKATSU Tatsuya, SATO Yoshitake, ADACHI Keiko, USAMI Taro, KOZIMA Michio, TSUGE Masayoshi)